

乳くれ地蔵

文 国枝 哲夫

▶乳くれ地蔵願主宥峰供養塔



▲六地蔵



▲地蔵盆(平成12年8月、山本仁司さん撮影)

巡礼街道沿いの地蔵堂(宝暦七二一七五七年建立)の前で一人の巡礼者が道端で倒れ、喘ぎながら「どなたかお乳を下さい、お乳を」と道行く人に声をかけました。誰も近づきません。伝え聞いたおみねさん(名主竹中与惣治保常の妻)が側によつて乳を与えようとすると、「いえ、乳が欲しいのではありません。願いを聞いてくださる慈悲深いお方を探しております。私は伊予の国氷見村(現在の愛媛県西条市)の宥峰と申します。子を亡くして諸国巡礼を思い立ち、谷汲山で満願を果たして伊予へ帰るところですがもう病で歩けません。これで六地蔵を建てて下さい」と懐のお金を渡して息絶えました。宥峰は手厚く埋葬され、遺言によつて六地蔵が建立され、石の道標も立てられました。文政六(一八二三年)のことです。いつしかここは「乳くれ地蔵」と呼ばれるようになり、お乳がよく出るようになると願う女性がお参りするようになりました。(上八幡「乳くれ地蔵の由来」より)昭和31年に宥峰の供養塔(巡礼杖を模した6角柱)が建てられ、六地蔵堂も改築されました。なお、宥峰の子孫は不明ですが、平成16年に西条市の篤志家から幟が寄進さ

れています。

地蔵盆

地蔵菩薩はあの世でもこの世でも子どもを守ってくださる仏様です。地蔵盆の8月24日(現在は下旬の日曜日)夕方、乳くれ地蔵の前は里帰りした家族と一緒に夕涼みがてらお参りする人達で賑わいます。幟が立ち、赤い提灯や道沿いのぼんぼりに灯がともり、地蔵堂での読経が始まります。竹ざおを組んで盆提灯を飾りつけた数本の竿灯が一斉に立てられると喚声(かんせい)が上がって祭りは最高潮です。近くで子ども花火もポンポンと打ち上げられて盛り上がります。夏の終わりの風物詩です。

(注 乳くれ地蔵のすぐ北に事故多発の交差点があります。くれぐれも注意を。)

編集 池田町観光ボランティアガイド協会

